

摂食・嚥下委員会

委員長 細見直永

代表 尾知美穂

活動内容

摂食・嚥下に対する知識・技術の理解が深まり、個別の状態に応じた安全なケアが提供できることを目標に委員会活動を行っています。毎月第4火曜日を委員会活動日とし、定例会議を実施しています。定例会議はコアメンバーで会議を開催し、各委員に議事録で報告を行っています。各スタッフは部署の課題、取り組み内容を毎月活動報告として報告しています。

委員会の(コアメンバー)参加率については 70-85%、各病棟の委員による活動報告の提出率は 25～100%でした。

具体的な活動計画として、①報告書作成による各委員の取り組みの PDCA サイクル化、②ロリハ認定講座実施、③病棟ラウンド実施、④委員会通信発行、としました。

①では、委員会目標に沿って自部署の目標を設定し、1ヶ月の課題・活動内容、評価・考察、翌月への課題という内容で報告書を毎月作成しました。これにより PDCA サイクルで自部署の摂食・嚥下障害へのアプローチを考察・実施していききました。報告書は全病棟から提出してもらい、1つのファイルにまとめて全委員にフィードバックし、他部署の取り組みも周知してもらうようにしました。

②では、脳卒中認定看護師、歯科衛生士、言語聴覚士、認定講座を修了した看護師が講師となり、今年度 17 名が認定講座を受講修了しました。

③では、全 15 病棟を 4 つのグループに分け、1回のラウンドで 3～4 病棟を昼食の時間帯に訪問し、状況を確認しました。評価内容は、フローチャートの周知状況、食事時の姿勢、口腔内・義歯の状況、窒息状況といった項目でした。前期と後期に分けて評価し、概ね前期に比し後期で改善がみられました。また、適宜病棟スタッフと振り返りを行い、情報共有を行いました。

④では、摂食嚥下委員会通信「もぐもぐごっくん通信」を輪番制で作成担当を設定し、年 4 回発行しました。

<ロリハ認定講座の様子>



座学のメンバー
(歯科衛生士、ST、
看護師)



嚥下フローチャート
や喉頭挙上の実技



車椅子上での安全な
姿勢設定の実技

次年度の課題

活動報告の提出率が病棟によって差がみられたため、100%を目指し、各病棟での摂食・嚥下障害への対策が自律自働できるような体制を構築していきます。昼食時の病棟ラウンドでは、2回目の実施にて改善がみられたため、来年度も継続し更なるレベルアップを目指すとともに、通信で結果報告など、フィードバック方法の拡大化も図ります。また、誤嚥・窒息リスクがある患者を把握し、タイムリーに評価・対策立案を行い、誤嚥・窒息の防止ができるような活動にも取り組んでいきます。